

編集後記

本号では、日本原子力研究開発機構理事田島保英様から、『円と直線と菱形』と題する巻頭言を頂きました。記事には、核融合科学研究所の藤堂泰様より『磁場閉じ込めプラズマの高エネルギー粒子・電磁流体連結シミュレーション』という表題で、核融合分野で最新のシミュレーション研究について、当財団の吉田秀逸様より『シンガポールにおけるHPCの動向調査』という表題で、日本と同じように省資源国シンガポールにおけるHPCの動向の調査を、さらに理化学研究所の熊畑清様より『新ベンチマークソフトウェアHPCGのスーパーコンピュータ「京」上での性能改善』という表題でスパコンの最新のベンチマークソフトウェアHPCGを使用して「京」でチューニングを行いその結果について研究報告を頂き刊行の運びになりましたことを、厚く御礼申し上げます。

先日、「閏秒」の挿入がちょっとした話題になりましたが、時刻制度について気になり調べて見ました。日本の時刻制度は江戸時代までは各地の地方時で行われていましたが、明治時代以降、電信や鉄道などの新しい技術が導入されるにつれ、国内各地で

別々の時刻を使用するのは非常に不便になってきました。そこで幾つかの動きが出てきました、電信局は全国で東京時刻を使用し、気象台では全国で京都時刻を使用することになりました。しかし明治17年(1884)ワシンシンで国際会議が開かれ、各国はできるだけ子午線の度数が15度の整数倍の所の地方時を使用することになりました。そこで日本も東経135度線の明石時刻が使用されることになりました。この会議の後、明治19年7月13日勅令51号により明石時刻が日本標準時と定められ、明治21年1月1日から施行されました。これを記念して7月13日が日本標準時制定記念日とされています。

最近では、UTC協定世界時といい、世界共通の標準時であり、セシウム原子時計によって刻まれる国際原子時をもとにして常に正確に保持されているそうです。世界各国や地域で採用されている標準時は、UTCよりも何時間進んでいるか、何時間遅れているのかでUTC+1(フランスなど)やUTC+9(日本など)のように表記されます。

(中村)